コンゴ共和国

【国名】

●15 世紀頃まで同地域で栄えた「コンゴ王国」に由来。1960 年「コンゴ共和国」として仏から独立。

コンゴ共和国国旗

●隣国コンゴ民主共和国と区別するため，「コンゴ・ブラザビル」とも呼ばれる。1969 年，コンゴ労働党の一党支配の下，「コンゴ人民共和国」に変更。1991 年に複数政党制を導入し「コンゴ共和国」に戻った。

【国旗】

●緑は未来への希望，黄は誠実さと誇り，赤は熱意を象徴。

【国土】

●中部アフリカのギニア湾側に面し，国土の約半分は熱帯雨林の生い茂るコンゴ盆地。面積は 34．2 万㎢（日本の約 0．9 倍）。首都はブラザビル。人口は約 526 万人。

【首都「ブラザビル」】

●首都ブラザビルは，19 世紀末に同地域を調査した仏人探検家サヴォルニャン・ド・ブラザに因んで命名。第二次世界大戦中，ドゴール将軍により自由仏軍の首都に指定された。市庁舎前には，同人物の墓石を展示し，功績を称える記念館がある。

●映画「カサブランカ」の ラストシーンでは，主人公のハンフリー・ボガードがブラザビルに身を隠すように勧められている。

●1934 年，コンゴ・オーシャン鉄道開通により，大陸中央部のブラザビルは，大西洋岸の第二の都市ポワント・ノワールと鉄道で結ばれ，コンゴ河の河川交通の発着地として急速に発展。

【部族・言語】

●約 15 の部族が存在し，コンゴ族が最大部族。先住民のピグミーが各地に分散居住している。2005 年の愛地球博では，その多様な部族の中から北部のモイェ族が，藁やヒョウの毛皮に身を包み，ゴングと呼ばれる鉄製打楽器のリズムに合わせ伝統舞踊を披露。

●言語は公用語のフランス語の他，リンガラ語，コンゴ語等多数。

【自然環境】

●コンゴ共和国は国土の中央を赤道が走り，標高も低く年中高温多湿。世界第二の熱帯雨林であるコンゴ盆地が広がる。

●北部ヌアバレ・ンドキ国立公園（面積４千㎢）では，マルミミゾウ，ニシローランドゴリラ，チンパンジーなど多くの野生動物が観察可能。アフリカの最奥部であり人類の介入のない「最後のエデン」とも言われる。

【第二の都市「ポワント･ノワール」】

●ポワント・ノワール沖に油田があり，１日当たりの原油生産量は，サブサハラ・アフリカでは，ナイジェリア，アンゴラに次ぎ多い。天然ガスの開発も進んでいる他，鉄鉱石，リン鉱石，カリ鉱石等の鉱物資源も豊富に存在する。

●ポワント・ノワール港は，サブサハラ・アフリカ有数の深水港（水深約 15m）で中部アフリカの海運の拠点。ブラザビルやポワント・ノワールには新空港ターミナルが開港し，交通のハブとしての機能を高める。

●2012 年から 2018 年にかけて，日本は開発協力調査型技協「ポワント・ノワール市水産物バリューチェーン改善プロジェクト」を実施し，零細漁業センターを建設。毎日 300 人強の漁師が同センターを利用している。

【コンゴ発祥のファッション「サプール」】

●日本でもテレビ番組で紹介され，有名な「サプール（SAPEUR）」。仏語で「おしゃれで優雅な紳士協会に属する人々」の意。コンゴ(共)及びコンゴ(民)で月収数か月分のブランドスーツ等を身につけ，街を優雅に闊歩する集団を指す。

●サプールの起源は，1920 年代の仏領コンゴの社会運動家アンドレ･マツワ氏。その後，1960 年の独立後の混乱で一時廃れるが，歌手である故パパ・ウェンバ氏により再興。同氏はヨージ・ヤマモトやイッセイ・ミヤケ等ブランドスーツを身につけ当時の若者を魅了。

●2014 年 12 月には，NHK のテレビ番組「地球イチバン」にて，題名「世界一服にお金をかける男たち」でサプールが紹介されるなど，日本国内や世界各地でも注目が集まる。

【未確認生物「モケーレ・ムベンベ」】

●モケーレ・ムベンベ（Mokele-mbembe）は，中部アフリカ赤道直下にある熱帯雨林の湖沼地帯に生息すると想像される未確認生物。元々は現地人に古くから語り継がれてきた伝説上の怪物である。

●モケーレ・ムベンベ伝説のある国は，コンゴ（共），カメルーン，ガボン，赤道ギニア，ナイジェリアであり，特にコンゴ（共）北部のリクアラ県に伝承。同地域では目撃談も多い。

●探検家・研究者などによって収集されたモケーレ・ムベンベの伝承や目撃情報は 1770 年代の書籍からも見つかる。日本では作家の高野秀行氏が自身の著書「幻獣ムベンベを追え（2003 年，集英社文庫）」で，早稲田大学探検部時代の経験を記載。　　（了）